資料 2

既存資料の収集・分析等

関係統計資料等の分析

① 西東京市の人口・世帯数

・平成 30 年 7 月現在、西東京市の人口は 201,993 人、世帯数 96,811 世帯。
・平成 26 年 3 月から、人口は 4,550 人増加（人口増加率 2.3%）。
・年齢別人口構成を見ると、男女ともに、45～49 歳の人口が最も多い。

② 農業経営の現状

◆農業経営（推移）

・販売金額規模別農家数は、平成 27 年現在で 50 万円未満が最も多く 22.2%を占める。販売金額 200 万円未満が、全農家の約 6 割を占める。
・200 万円未満の割合が、徐々に増加している。
・販売金額 700 万円以上が、平成 22 年に比べ戸数・割合ともに減少している。

◆農業経営（周辺区市比較）

・西東京市と同様に、販売金額が 50 万円未満の農業者が最も多い自治体は、東村山市、東久留米市、小金井市、小平市、練馬区、新座市となっている。
※前回調査で 50 万円未満の農業者が最も多い自治体は、西東京市と東久留米市のみであった。
・200 万円未満の農家割合は、清瀬市を除くいずれの自治体においても、約 6 割台と高くなっている。
・700 万円以上の農家割合は、清瀬市に次いで高い状況である。

◆農産物（産出額）

・平成 28 年の農業産出額では、「トマト」が最も多く、次いで、「こまつな」「日本なし」「キャベツ」「ほうれん草」の順である。
・品目別構成比では、「こまつな」「ほうれん草」の割合が高まっており、「日本なし」「キャベツ」「ぶどう」の割合が低下している。

◆農産物（作付面積、収穫量の推移）

○作付延べ面積
・野菜、果樹、植木ともに、作付面積の大きな変化はなく、全体的に微減傾向がみられ

る。
・緑肥作物のみ、連続した微増が確認できる。
○主要野菜の作付面積
・作付面積は一貫して「キャベツ」が最も多い。次いで、「こまつな」「ほうれんそう」「ブロッコリー」「だいこん」などが上位となる。
○主要野菜の収穫量
・収穫量についても「キャベツ」が最多となっており、「ほうれんそう」「えだまめ」「ねぎ」を除き、概ね減少傾向にある。
・平成27年から28年の間に、「ばれいしょ」「とうもろこし」「さといも」の収穫量が大幅に減少している。
○主要果樹・花卉
・果樹については、作付面積は「くり」「かき」の順で多く、収穫量は「日本なし」「かき」が多い。
・花卉は花壇用苗ものを除き、面積・収量ともに減少している。

◆農産物（作付農家数）

・平成27年の作付農家数では、「だいこん」「きゅうり」「トマト」「なす」「キャベツ」が野菜の上位5品目、「かき」「うめ」「くり」が果樹類の上位3品目となる。
・平成22年と比べて、上記の農産物のうち、「かき」の作付農家が増加している。

◆農産物（農家数、作付面積の周辺区市比較）

・周辺区市においても、西東京市と同様に野菜、いも類、花卉類の作付が多い。稲の作付はほとんどない、畑作地域である。

③　農地の現状

◆西東京市の土地利用

・地目別では宅地が60.8%と最も多く、中でも一般住宅地が45.9%と大半を占める。
・畑は8.7%と市全域の1割弱を占めるが、減少傾向が続いている。

◆生産緑地

・生産緑地の指定は、農地のうち86.1%、市域全体の7.5%である。
・生産緑地の面積は減少傾向にあり、平成4年当初に比べると、面積で約30%、地区数で約12%減少している。

◆経営耕地の状況

・平成27年現在の経営耕地面積は約152haで、畑が約84%と大半を占め増加傾向にある一方、樹園地が約15%で減少傾向にある。

◆経営耕地の状況（周辺市比較）

・畑、樹園地の割合として西東京市と類似しているのが、東久留米市、練馬区である。
・いずれの市においても9割以上の農家が畑作に従事し、果樹栽培に約3～4割の農家が従事している。

（参考）住宅・空家数

・本市の住宅数は平成25年現在で87,230戸となっており、平成20年までは増加傾向が続いていたものの、平成25年には減少に転じている。
・世帯に対する住宅数は、平成20年まではやや住宅超過の状態であったが、次第に緩和され、平成25年には0.99とやや住宅不足の状態となっている。

◆災害協力農地

・災害協力農地として、生産緑地のうち、面積の約10%、筆数の約30%が登録されている。
・平成24年から、2筆増加したが、面積としては32a減少している。

◆農地転用

・農地転用状況を見ると、平成24年～28年の5年間で、210,722㎡が転用されており、転用先の用途は、宅地が最も多く176,458㎡（約84%）、駐車場や資材置場が6,505㎡（約3%）、その他25,149㎡（約12%）となっている。

④　担い手の現状

◆農家の状況

・平成27年現在、農家数は234戸で、そのうち、専業農家が78戸（33.3%）、第1種兼業農家が14戸(6.01%)、第2種兼業農家が71戸(30.3%)、自給的農家71戸(30.3%)となっている。
・平成2年から27年までの25年間で、農家数は約4割減少し、農業就業人口は1,589人減少した。

◆農業者の年齢構成

・農業従事者の年齢構成を見ると、平成27年現在、70歳以上が最も多く151人（39.9%）を占める。次いで50～59歳（24.1%）、60～69歳（18.8%）と続き、従事者の高齢化が進行している。
・平成27年度には、15～19歳で2人の増加がみられる。

◆経営耕地面積規模別農家数推移

・経営耕地面積規模別農家数は、0.5～1.0haが最も多く36.7%を占める。
・15年間で農家数は減少しているが、面積規模別農家数の割合はあまり変化していない。

◆経営耕地面積規模別農家数周辺区市比較

・周辺区市との比較をすると、0.5～1.0haの農地規模の割合が最も高いことは、武蔵野市、小金井市を除いては共通している。
・1.0ha以上の経営耕地面積規模の農家が西東京市は22.1%であり小平市、東久留米市と同程度の割合を示す。

◆認定農業者

・認定農業者数は、平成29年7月現在52名。（平成24年7月現在48名）。
・平成25年度を除き、毎年度、1～3名の新たな認定農業者が生まれている。

⑤　生産流通体制づくりに関連する現状

◆市内産業の状況

・事業所数で見ると農林業に係る従事者は、非常に少ない。
・一方で、卸売業、小売業の事業所数、従業者数は多く、それぞれ全体の約23%、約20%を占める。

◆卸売業、小売業の状況

・卸売業、小売業において、食・農業に関連する業態が市内には多く存在する。

・しかし、小売業の事業所数は平成22年からの5年間で約3割減少している。
※平成22年時点の小売業事業所数は1,139であった。

◆市民農園の状況

・市内には市民農園が5箇所あり、総数は363区画、7,625㎡。

◆農業体験農園

・農業体験農園が4園開設、農業者の指導のもとで、多くの市民が農業に親しみ、楽しんでいる。
・5年前と比較するとトミー倶楽部では5区画増設となっている一方で、きたっぱら体験農園が1区画、芝久保元気村が3区画減少となっている。
・グリーンファームHASUMIは平成29年度をもって閉園となっている。

◆学校農園の状況

・学校農園は平成30年度現在6校が実施、面積は約2,500㎡となっている。

◆援農ボランティア

・平成29年度までに、「東京の青空塾」を受講し、修了した援農ボランティア数は117名である。
・5年間で33名が受講している。

◆各種事業・イベントの実施

・市主催により、農業の理解、食育、災害時協力農地に関連したイベントを実施している。
・平成23年度以降に、「農のアカデミー体験実習（農業体験事業）」「緑のアカデミー事業」「農のアトリエ『蔵の里』事業（農業学習事業、市民参加型事業、畑の防災訓練）」が新たに実施されている。
・「親子で野菜づくりにチャレンジ」への参加者が大幅に増加している。